

NEWSLETTER

JUN. 2026

ISSUES #14

当社の旬な話題をご紹介します
大気社ニュースレター
発行元：株式会社大気社 経営企画部
広報・サステナビリティ推進課
連絡先： mailmast@taikisha.co.jp

変わる時代、 変わらぬ志

第三の創業期に向けて、 新たなPurpose・Vision・Our Valuesを策定



当社は昨年、2035年のありたい姿「Be Engineering for a Sustainable Society」を掲げ、その実現に向けた長期計画「10年プラン2035」を策定しました。

そしてこのたび、長期の方向性を支える当社の“志”や社会における存在意義をあらためて見つめ直し、新たなPurpose（存在意義）・Vision（目指す姿）・Our Values（価値観）を策定しました。

これは、大気社グループがこれから何を大切にし、どこへ向かうのかを示す指針です。

第三の創業期に向けて

当社は、バックキャストの考え方を取り入れ、10年スパンの長期計画を策定しました。社是「顧客第一」の制定、社名変更、株式公開などを進めた1970年代を「第二の創業期」

とするなら、今回の取り組みは、「第三の創業期」ともいえる節目だと捉えています。そして今、技術革新や社会構造が大きく変化する中、私たちは再び大きな転換点に立っています。こうした時代だからこそ、自ら変化を生み出し、社会に新たな価値を提供できる存在でありたいと考えています。

「顧客第一」の精神を 未来へつなぐ

そして、このたび私たちは、当社の“志”や社会における存在意義をあらためて見つめ直し、私たちは何のために存在し、どのような姿を目指し、何を大切にしていくのかの拠りどころを新たなPurpose・Vision・Our Valuesとして形にしました。

その根底にあるのは、1970年に制定された社是「顧客第一」です。技術と創意を通じて社会に貢献する志を受け継ぎながら、これからも産業社会の高度化と地球環境との調和を

図り、人々の豊かな暮らしに貢献していきます。

世界の知を、現場のカタチに

こうした志をこれからの時代に向けて表したのが、新たなPurpose「大気をまもり、未来をひらく。」です。そしてVisionには「世界の知を、現場のカタチに。」を掲げました。

当社は、グリーンテクノロジーとロボティクスオートメーションを核に、世界中の知見を取り入れながら社会課題の解決に挑戦していきます。単なる設備提供者ではなく、世の中と共に未来をつくる「真のエンジニアリング企業」を目指します。

先人たちの“志”を受け継ぎながら、変えてはならないものを大切に、持続可能な社会の実現に向けて歩みを進めていきます。

代表取締役社長
長田 雅士

社員の声から生まれた、新たなPurpose・Vision・Our Values

グループ全体の声を集め、受け継ぐ志と未来への想いを形に

今回制定した新たな Purpose・Vision・Our Valuesは、経営陣が一方的に定めたものではありません。大気社グループ全体を対象とした社員アンケートや、国内各地区でのワークショップ、海外拠点長やお客さまへのヒアリングなどを通じて、社員一人ひとりの

想いや意見を集めながら形にしてきました。

ワークショップでは、「2050年の社会で、大気社はどのような存在でありたいか」「そのために会社をどう変えていくべきか」「従業員にはどのような行動が求められるか」と

いった問いをもとに、参加者がグループで議論を重ねました。大切にしたのは、先人たちが築いてきた「顧客第一」のDNAを受け継ぎながら、これからの時代に大気社が社会からどう思われたいのかを、社員自身の言葉で考えることでした。

新たな Purpose・Vision・Our Valuesは、過去から受け継いだ志と、未来に向けた社員の想いを重ね合わせて生まれた、大気社グループ共通の指針です。



▲社外会場の開放的な雰囲気の中、役員や社員が自由に意見を交わし、大気社の未来について討議・発表を重ねた（上：会場の芝生にあぐらをかいて、リラックスムードで意見交換 下：中央ステージとスクリーンを使った発表を自由なスタイルで参加）



▲新たに策定したPurpose・Vision・Our Values

「顧客第一」に込められた思い

社是制定から社名変更へ。受け継がれる志

1970年11月、当社は社是「顧客第一」を制定しました。高度経済成長の中で事業規模が拡大する一方、組織として共有すべき価値観や進むべき方向を明確にすることが求められていた時代でした。社是「顧客第一」には、お客さまの真のニーズを捉え、技術と誠意をもって期待に応え続けることで、社会から信頼される会社であり続けるという思いが込められていました。

その3年後の1973年、創立60周年を迎えた当社は、社名を「建材社」から「大気社」へ変更しました。公害問題や環境保全への関心が高まる中、新しい社名には、建材という枠を越え、エネルギー・空気・水に関わるエンジニアリングを通じて、より良い環境づくりに貢献していく意思が込められていました。

また、「大気社」という社名は、当社が社会に対してどのような存在でありたいかを示す宣言でもありました。時代の要請が変わる中でも、根底にあったのは「顧客第一」の精神であり、技術を通じて社会に貢献するという変わらぬ志でした。

半世紀以上が過ぎ、社会課題は気候変動、脱炭素、産業のスマート化、グローバル化へと広がっています。求められる技術や解決すべき課題は変化しても、社会のニーズに向き合い、より良い未来を切り拓いていく姿勢は変わりません。

今回策定したPurpose「大気をまもり、未来をひらく。」は、先人たちが築いてきた精神を、これからの時代に向けて受け継ぐ言葉でもあります。「顧客第一」に込められた思いは、今も大気社グループの根底に息づいています。



▲1973年、創立60周年を機に「建材社」から「大気社」への社名変更を伝えた新聞広告